

# 信濃美術館の課題と整備検討委員会の方針

## 1 本館

長野県県民文化部 文化政策課

### 施設全般

- 老朽化が著しい  
築50年経過による雨漏りや漏水等により、展示室や収蔵庫の環境が悪化
  - バリアフリー化が困難  
館内移動が階段や急勾配のスロープに頼る構造のため、高齢者や障がい者の利用に支障
- ⇒ 施設の全面改築が必要

### 展示部門

- 常設展示室がない <参考>新潟県立近代美術館:1,128㎡、山梨県立美術館:2,121㎡  
県民の財産である収蔵品(約4,000点)の鑑賞機会がほとんど提供できない
  - 企画展示室が狭い(893㎡) <参考>新潟県立近代美術館:1,322㎡、山梨県立美術館:977㎡  
国宝や重文級の美術作品を含む全国規模の巡回展の招致が難しい
- ⇒ 常設展示室(500㎡)を新設し、収蔵品を常時鑑賞できる環境を整備  
企画展示室(1,500㎡)を増床し、全国規模の巡回展を受け入れられる環境を整備

### 収蔵部門

- 収蔵庫が狭い(244㎡) <参考>新潟県立近代美術館:1,746㎡、山梨県立美術館:1,470㎡  
収蔵庫が満杯状態であることから、新たな作品の購入ができない
  - 収蔵庫として必要な機能がない  
トラックヤード<sup>※1</sup>や美術品の一時保管庫<sup>※2</sup>が未整備のため、重要美術品の取扱が困難
- ⇒ 収蔵庫(1,300㎡)を増床やトラックヤード、一時保管庫等の設置により、美術品を適正に管理できる環境を整備

※1 トラックヤード:トラックなどから美術品の積み替えを行うエリア

※2 一時保管庫:美術品を美術館の環境に慣らすための一時的なスペース

### コンセプト実現のための機能充実

- 美術による学びの支援  
教育プログラムの拠点となるワークショップ室・アトリエ(200㎡)、講堂(300㎡)を設置
- 美術作品の発表の場の提供 <参考>新潟県立近代美術館:347㎡、山梨県立美術館:720㎡  
県民が美術作品を常時発表することができる専用スペース(県民ギャラリー500㎡)を設置  
※講堂、ワークショップ室・アトリエは多目的利用可
- 調査・研究機能の充実  
一般来館者のみならず、県内美術館学芸員や大学の研究者・学生等の調査・研究を支援するリサーチセンター(美術図書館)を設置
- パブリックスペースの充実  
誰もが気軽に集い、憩えるようエントランスロビーやカフェを充実

## 2 東山魁夷館

- 築25年経過による施設・設備の老朽化への対応(長寿命化)  
空調・消化設備等の更新、照明のLED化、展示室内装の改修、外壁・屋根・水盤の補修
- 収蔵部門の充実  
トラックヤードの新設、収蔵庫(200㎡)を増床(館長室からの振替)
- バリアフリー化  
エレベーターの増設(1→2機)、トイレの改修、授乳室の設置